

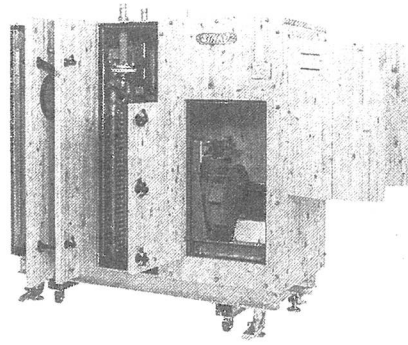
新しい空気調和機  
のコンセプト

# 「Green AHU」を策定

## 新晃工業 コンセプトモデルを公開

新晃工業（本社・大阪市北区、社長・末永聡氏）は、カーボンニュートラル

社会の実現に向け、新しい空気調和機（AHU：Air Handling Unit）のコンセプト「Green



外板に間伐材を採用したコンセプト・スタディモデル

「Green AHU」を策定し、このほか、これを具現化したコンセプト・スタディモデルを公開した。

世界的に脱炭素の取り組みが求められる中、メーカーの責任として「作る／運ぶ／使う／維持する／再生する」というAHUのライフサイクルにわたるコンセプト・スタディを通して、持続可能な社会に貢献できるAHUの在り方を提案していく。

大規模建物のセントラル空調システムに採用されるAHUは、建物の中で活動する人や保管される文化財、製造される製品、発熱するサーバーなど、施設用途によって求められる温度、湿度、清浄度、音振動、気流を調整し最適な空気を提供する空調機器である。

従来は、機器のコンパクト化と省エネルギー化が重要視されてきたが、Green AHUは、どのように製作すればサステナビリティに貢献できるか、どのようにコンパクトにすれば輸送プロセスの負荷を低減できるか、どのような素材を使い、どう維持すれば廃棄物を削減できるか、という製品ライフサイクル全体を見据えて設計・生産を行う。

また、これまであまり重視されてこなかった「リサイクル素材」に注目した。特に木材は、リサイクル面だけでなく材料製造時のCO<sub>2</sub>排出量が抑えられるというメリットがあることから、コンセプト・スタディモデルでは外板に間伐材を採用している。

森林保全に伴って発生する間伐材を使用することは、気候変動への対応にも大きく貢献することから、積極的な活用を視野に入れていく。